

各自治体では地域包括支援センターの立ち上げなどで高齢者に対するいろいろな仕組みが出来上がりつつあるが、一方で少子化対策に力を入れなければならないようになってきている。その中でも、待機児童問題は解決しなければならない重要な課題の一つだ。保育士の不足などの問題点もあるが、地域住民の反対で保育施設自体の設置が難しくなっていることが大きな問題になっている。子どもたちの騒ぎ声、送迎時の混雑などが主な原因らしい。

私はもう50年以上前、市内の幼稚園に2年間通ったことがある。50年前とは言え幼稚園周囲には住居店舗等が結構密集していた記憶がある。かなりの園児数だったので、午前と午後の休み時間には園児のはしゃぐ声で周囲の人にとっては、かなりうるさく感じていたに違いない。ましてや運動会近くになると、スピーカーから流れる音楽

や先生たちの指示が毎日のようにうるさく響いていたであろう。実際どうだったかわからないが、周囲の住民も半ばあきらめていたのか、当然のことと受け止めていたのか、大きな問題もなく園児を受け入れてもらっていたような気がする。

現代は住民の繋がりも薄くなり、自分だけが損をしているのではないかと、保育施設などが近くに設置されることに異常に反発する人が増えている。閑散とした田舎に住んでいる私に言う資格はないかもしれないが、次世代を担う子どもたちを受け入れる寛容さ、お互い様の精神が必要ではないだろうか。設置する側も、設置

前の住民との十分な話し合い、騒音に対する可能な対策、送迎時の混雑緩和やマナーの徹底、保育施設と地域との交流などを積極的に行って地域住民のコンセンサスを可能な限り得ることが求められる。

## 論壇

# 保育所設置問題 に思う

茨城県保険医協会 広報部員 真中 信之